

## 4 は種

**POINT 1** は種適期は5月13日～25日です！

### (1) は種早限

水稻直播栽培のは種適期の目安は「は種後5日間の平均気温が11.5℃になる日」となります。

平年の平均気温で見ると岩見沢アメダスでは5月13日からとなります。過去10年間の平均気温では5月13日以降にも平年以下の気温となる日がありますので、5月13日以前のは種は出芽までの日数が長くなり、出芽率・出芽揃いに影響する恐れがあるので避けましょう。

### (2) は種晩限

十分な生育を確保するためには6月6日頃までの出芽を目標とします。は種後、概ね2週間程での出芽が見込まれますので晩限としては5月23日頃を目安と考えます。

は種が遅れると登熟が遅れ、収量・品質に影響してきます。

◎以上のことから、**5月13日～25日**をは種の適期と設定します。

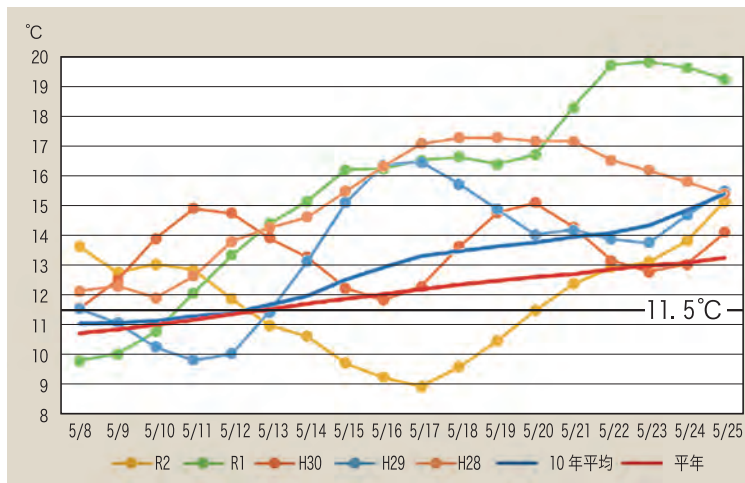


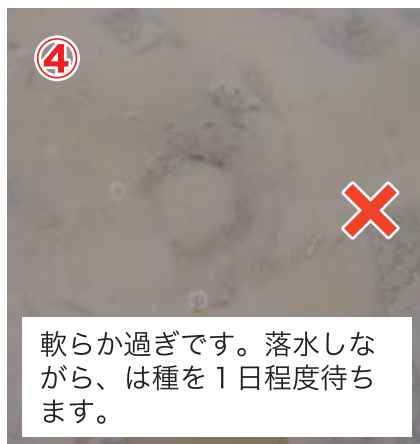
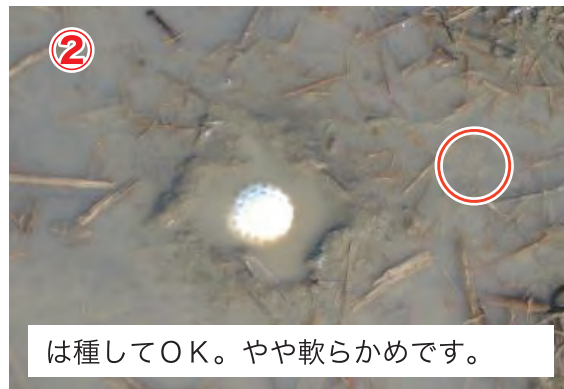
図29 平年と過去10年の平均気温の推移

※「平年」は過去30年間の平均気温

## POINT 2

## 基本のは種床状態を確認

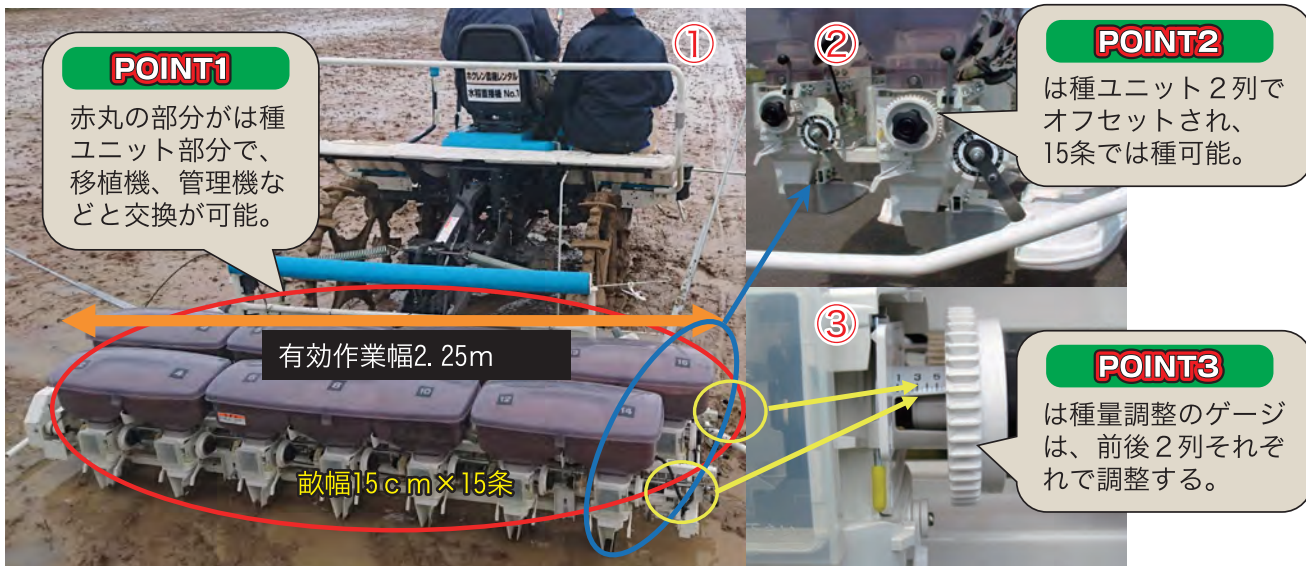
確認の仕方：胸の高さ（1mくらい）からゴルフボールを自然落下させます



POINT3 播種機の調整

(1) クボタ点播播種機

- 基本的な操作は田植機と同じです。側条施肥装置はありません。
- ほ場がやや軟らかい状態の方が、適度な種深度となります。
- 播種機部分が移植機と交換できる、移植兼用機です。
- 種子の繰り出し部分のアタッチメントの脱着で、条播と点播の共用ができます。
- ホクレン油機サービスではレンタルも実施しています。詳細はJAへお問い合わせください。



## ○クボタ点播播種機を使用上の注意事項

## 注意事項 1



軟らかめですが、水がないのでは種可能。

写真の状態は、ややほ場が軟らかいが、この播種機は、種子が自然落下式のため、は種深度は良好となる。ただし、表面に水がたまっている状態では、は種精度が落ちる。

## 注意事項 2



1株に7粒ほど落ちることにより、出芽後は根絡みを起こすような状況となり、倒伏にも強くなることが期待されます。

点播は、5l. 3株/m<sup>2</sup> (畝間15cm×株間13cm) の密植栽培と考えます。

このときは種量を約10kg/10a(約322粒/m<sup>2</sup>)に設定すると、1株当たり6～7粒は種となります。苗立率が60%では、約3～4本/株となり、苗立本数は 約190本/m<sup>2</sup>となります。

湛水直播の安定収量に必要な苗立本数が確保できる。は種量はしっかり調整しましょう！

<クボタ播種機：点播仕様は種量の目安>

- 品 種：大地の星 (消毒種子催芽剤)
- は 種 量：約10kg/10a (乾籾重)
- は種粒数：6～7粒/株
- 苗 立 率：60%以上確保



丸部分の操作レバーを押し下げることで、任意の場所に溝切りを行うことができます。

は種時に播種機の溝切り機能を活用することで、均一な水管理が行い易くなり、は種後の種子への過度な滞水を防ぐことができます。



## (2) ヤンマー土中湛水条播播種機

- 1 基本的な操作は田植機と同じです。
- 2 代かきは硬めで、できるだけ入水量を少なくし、作業を行ってください。

**POINT1**

センサーが、種  
のつまりを感知すると警告音なる。

作業可能速度  
3～5 km/h

有効作業幅2.2m

種子がこのように見える  
程度がベストな状態です。

**POINT2**

土壌の硬さに合  
わせて5段階の  
覆土調整がレ  
バー操作で可能

畝幅20 cm × 8条 + 畝幅30 cm (タイヤ後ろ) × 2条 = 10条

**POINT3**

肥料のつまりや、  
補充もセンサーが  
感知し、警告音か  
なる。



ゲージの調整はは種と施肥の2か所があり、は種時に調整をしましょう。

### (3) ヤンマー点播播種機

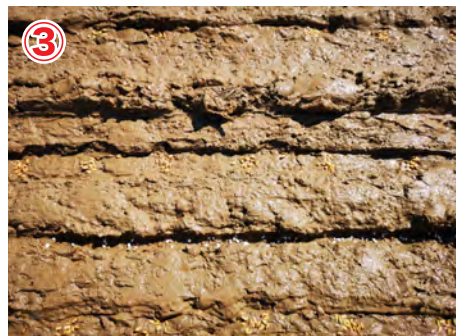
- 1 基本的な操作は田植機と同じです。
- 2 代がやや軟らかい状態の方が、適度な種深度となります。



側条施肥後に肥料を覆土する仕組みがあります。  
 ※ 写真のは種作業時は作業面積が広がったためにほ場が乾き、は種の途中からほ場が少し固めになりました。



乾きすぎた結果、ほ場が固くなってしまい種子・肥料が露出した。



## POINT 4 湛水は種の再確認事項

- 1 J Aいわみざわ地域のは種適期は5月13日～25日とします。
- 2 は種の2～3日前には代かきを完了し、基本はは種前日の夕方（日差しに影響を受けない）から落水を開始します（早すぎる落水はほ場が乾いて固くなりすぎてしまいます）。
- 3 再入水は107ページの積算温度の目安を参考に、根と芽の伸長を確認してから行います。
- 4 24時間以上の水の停滞は、酸素不足を招き、催芽途中の種子を死滅させます。溝切りを行って明きよとするなどし、ほ場での滞水をしないようにしましょう。



## 重要ポイント

## は種計画

稼働面積や天気を予測し、決定。

## 代かき

は種2～3日前が望ましい。

## 落水

ほ場の大きさやは種面積を考慮し、最初には種を行うほ場から順に落水を行う。（落水は前日夕方から行う）

## 代状態判断

ゴルフボールで硬さを確認し、は種の是非を判断。